

JIS

建築物及び建築部材の遮音性能の評価方法 —第1部：空気音遮断性能

JIS A 1419-1 : 2000

(ISO 717-1 : 1996)

(2007 確認)

平成 12 年 1 月 7 日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

まえがき

この規格は、工業標準化法に基づいて、日本工業標準調査会の審議を経て、建設大臣が制定した日本工業規格である。これによってJIS A 1419 : 1992は廃止され、この規格に置き換えられる。

今回の制定では、日本工業規格と国際規格との対比、国際規格と整合した日本工業規格の作成及び日本工業規格を基礎とした国際規格原案の提案を容易にするため、ISO 717-1 : 1996, Acoustics—Rating of sound insulation in buildings and of building elements—Part 1 : Airborne sound insulationを基礎として用いた。

JIS A 1419-1には、次に示す附属書がある。

附属書1(規定) 建築物及び建築部材の空気音遮断性能の等級曲線による評価

附属書2(参考) 建築物及び建築部材の空気音遮断性能の平均値による評価

JIS A 1419-1は、次の2部で構成される。

第1部：空気音遮断性能

第2部：床衝撃音遮断性能

主務大臣：建設大臣 制定：平成 12. 1. 7

官報公示：平成 12. 1. 7

原案作成協力者：社団法人 日本音響学会

審議部会：日本工業標準調査会 建築部会（部会長 菅原 進一）

この規格についての意見又は質問は、国土交通省住宅局住宅生産課（〒100-0013 東京都千代田区霞が関2丁目1-3）にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目次

	ページ
序文	1
1. 適用範囲	1
2. 引用規格	1
2.1 日本工業規格	1
2.2 国際規格	2
3. 定義	2
3.1 空気音遮断性能に関する単一数値評価量	2
3.2 スペクトル調整項	2
4. 単一数値評価量の求め方	2
4.1 一般事項	2
4.2 基準値	3
4.3 スペクトル特性	3
4.4 比較の方法	3
4.5 スペクトル調整項の計算	3
5. 結果の表示	4
5.1 建築部材の空気音遮断性能の表示	4
5.2 建築物の空気音遮断性能の表示	4
附属書1(規定) 建築物及び建築部材の空気音遮断性能の等級曲線による評価	9
1. 適用範囲	9
2. 引用規格	9
3. 定義	9
3.1 空気音遮断性能に関する等級	9
3.2 等級曲線	9
4. 等級曲線の周波数特性と数値	9
5. 空気音遮断性能の等級の求め方	9
附属書2(参考) 建築物及び建築部材の空気音遮断性能の平均値による評価	12
1. 適用範囲	12
2. 引用規格	12
3. 定義	12
3.1 空気音遮断性能に関する単一数値評価量	12
4. 空気音遮断性能の平均値の求め方	12
5. 結果の表示	12
5.1 建築部材の空気音遮断性能の表示	12
5.2 建築物の空気音遮断性能の表示	12

解説14

建築物及び建築部材の
遮音性能の評価方法—A 1419-1 : 2000
(ISO 717-1 : 1996)

第1部：空気音遮断性能

Acoustics—Rating of sound insulation in buildings and of building
elements—Part 1 : Airborne sound insulation

序文 この規格は、1996年に発行されたISO 717-1 : 1996, Acoustics—Rating of sound insulation in buildings and of building elements—Part 1 : Airborne sound insulationを翻訳した日本工業規格であり、次に示す**附属書1**及び**附属書2**を除き、技術的内容を変更することなく作成したものである。

附属書1は、JIS A 1419 : 1992(建築物のしゃ音等級)で規定していた空気音遮断性能の等級曲線を用いる評価方法を改めて規定したものである。

附属書2は、周波数帯域ごとの遮音性能値の算術平均値を単一評価量として用いる方法を参考として示したものである。

なお、この規格で点線の下線を施してある“参考”及び測線を施してある箇所は、原国際規格にはない事項である。

1. 適用範囲 この規格は、

- a) 建築物及び壁、床、扉、窓などの建築部材の空気音遮断性能に関する単一数値評価量を定義し、
- b) 建築物内部の騒音、建物外部の交通騒音など各種騒音源のスペクトルの違いを考慮して単一数値評価量に加え
るべき調整項を定義し、
- c) さらに、JIS A 1416, JIS A 1417, ISO 140-5, ISO 140-9及びISO 140-10によって行った1/3オクター
ブバンド又はオクターブバンド測定の結果から、上記の評価量及び調整項の値を求める方法について規定する。

この規格で規定する単一数値評価量を用いることによって、建築物及び建築部材の空気音遮断性能を評価することができ、また、各種の建築規定における音響的要件の規定を単純化することができる。単一数値評価量の値については、それぞれの目的に応じて決める。

この規格で規定する単一数値評価量は、1/3オクターブバンド又はオクターブバンドごとの測定結果から求める。ただし、JIS A 1416に規定する音響透過損失の実験室測定については、1/3オクターブバンド測定の結果から単一
数値評価量を求める。

2. 引用規格 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格のうちで、発効年(又は発行年)を付記してあるものは、記載の年の版だけがこの規格の規定を構成するものであって、その後の改正版・追補には適用しない。発効年(又は発行年)を付記していない引用規格は、その最新版(追補を含む。)を適用する。

2.1 日本工業規格

JIS A 1416 : 1999 実験室における建築部材の空気音遮断性能の測定方法

備考 原国際規格ISO 717-1に引用規格として記載されているISO 140-3, Acoustics—Measurement of sound insulation in buildings and of building elements—Part 3 : Laboratory measurements of airborne sound insulation